

## 平成 29 年度 小国地域ふるさと創生基金事業報告

平成 30 年 1 月 31 日現在

事業名	事業内容	参加者	決算額
山野田で創作活動をしよう!!事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長谷晏里 書展「やさしさを生むひらがな」</li> <li>・小国芸術村のオープニングイベントとして開催した特別展。</li> </ul>	194 人	400,464 円
小国郷匠の食とわざ再発見事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示（竹細工・工芸品・つる細工・毬・ミニ古民家・わら細工・ひょうたん・人形・グラスリッセン・リース・折り紙アートなど）</li> <li>・飲食ブース（おこわ・とん汁・銀杏料理・ゼンマイ煮など）</li> <li>・小国地域で活動するバンドによる生演奏を行った。</li> </ul>	150 人	315,062 円
小国いきいきプロジェクト事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定例ワークショップ 年 5 回</li> <li>・看取りに関する講演会 1 回</li> <li>・介護サービス情報誌の配布</li> <li>・事例検討会 年 5 回</li> </ul>		※214,559 円 (1月31日現在)
小国の魅力再発見事業「オーイ発見!おぐにの旅 PART II」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トレイルランニングでのガイド活動</li> <li>・おぐにキャップの作成</li> <li>・小国の写真展ほかパンフレットの作成</li> <li>・ボランティアガイド研修</li> </ul>	トレンガイド 3 人  ボラガイド 3 人	600,864 円

## 山野田で創作活動をしよう!!事業

<p>事業の概要</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年4月に小国地域の3小学校は統合し、小国小学校1校となる。共に学び始めて間もない頃に創作活動をみんなで行うことで一体感を醸成する。</li> <li>・山野田は平成16年の中越大震災で集団移転し住む人はいなくなった。小国地域の宝である「小国和紙」発祥の地である山野田が忘れ去られないよう、子ども達から山野田を訪れ、学んでもらうことで、山野田を記憶に残しふるさとへの愛着と誇りを育み、次代への継承に繋げる。</li> </ul> <p><b>【事業費】</b> 400,464円</p> <p><b>【内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長谷晏里 書展「やさしさを生むひらがな」</li> <li>・会期：17日間（4月28日～5月14日）、休館：4日（5月1日、2日、8日、9日）</li> <li>・小国芸術村のオープニングイベントとして開催した特別展。</li> <li>・山野田に工房を構え創作活動を続けている坂本直昭氏が制作した紙に、千年の歴史を持つ「ひらがな」の世界を「柔らかく流れるよう」に表現した若き女性作家 長谷晏里氏の作品に来場者は魅了された。また、初日から3日間は、長谷晏里氏の手ほどき受け来場者が作品制作を行い、その作品を会場いっぱい飾り「やさしさ」に包まれた展示会となった。</li> <li>・当初、小国小学校児童を対象としたワークショップを開催する予定であったが、インフルエンザの流行により叶わなかった。</li> <li>・来場者数：194名（うち小学生6名）</li> </ul>
<p>事業の効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一線で活躍されている作家から直に手ほどきを受け、思い思いのひらがな書を制作することで、老若男女を問わない来場者の心に残る体験となった。</li> <li>・地域外の来場者もあり、小国地域の文化活動の発信及び地域の良さを伝えることができた。</li> <li>・地域内の来場者は、山野田を肌で感じ郷土を知る良い機会となった。</li> </ul>
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示品の観覧だけでなく、より芸術文化に親しむことができる「創作体験」の場の提供方法を考える必要がある。</li> <li>・小国和紙発祥の地「山野田」。今後、この原点を風化させないように芸術村の持つ役割や活用方法、芸術文化の振興について熟考しなければならない。</li> </ul>

## 実施状況



▲ 小国芸術村特別展記念写



▲ 展示・観覧風景①



▲ 展示・観覧風景②



▲ ワークショップ風景①



▲ ワークショップ風景②



▲ ワークショップ作品展示風景

## 小国郷匠の食とわざ再発見事業

<p>事業の概要</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小国地域在住の匠（作家等）の作品を一堂に会して展示し、小国地域のわざの凄さを再発見する。</li> <li>・展示と併せ、郷土料理の飲食ブースを設け、”小国のごつつお”として提供し、小国地域の食のPRをする。</li> <li>・小国地域で活動するバンドによる音楽の提供をし、小国地域で活動する音の匠についてもPRする。</li> <li>・昭和63年から地域内の芸術文化振興・交流・地域振興の拠点として設置された「小国芸術村」。その主要施設である芸術村会館のある山野田地区で開催し、訪れた人の記憶に残す。</li> </ul> <p><b>【事業費】</b> 315,062円</p> <p><b>【内容】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示（竹細工・工芸品・つる細工・毬・ミニ古民家・わら細工・ひょうたん・人形・ガラスリッツェン・リース・折り紙アートなど）</li> <li>・飲食ブース（おこわ・とん汁・銀杏料理・ゼンマイ煮など）</li> <li>・小国地域で活動するバンドによる生演奏を行った。</li> </ul>
<p>事業の効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小国地域の文化活動を発信し、地域の良さを伝えることができた。</li> <li>・小国芸術村のPRとともに、小国の情報発信の一翼を担った。</li> </ul>
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで、「小国和紙」発祥の地であり、芸術文化振興・交流・地域振興の拠点として設置された小国芸術村・山野田地区を風化させないように展示を企画していた。しかし、芸術村の運営を委託している団体の高齢化による運営方法の見直しもあり、小国地域の芸術文化発信方法について、今後、検討していかなければならない。</li> </ul>



## 実 施 状 況



▲ 小国郷匠の作品展記念写真



▲ バンドによる生演奏



▲ 展示会場の様子①



▲ 展示会場の様子②



▲ 展示会場の様子③



▲ 飲食ブースの様子

① 小国いきいきプロジェクト事業

<p>事業の概要</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小国健康いきいき支援事業の成果を引き継ぎ、小国地域の住民が地域において、いつまでも健康で自立した生活を送れるための仕組みづくりを構築するもの。</li> </ul> <p><b>【事業費】</b> 214,559円 ※平成30年1月31日現在</p> <p><b>【内容】</b></p> <p>上記目的を達成するために、住民・関係機関と協働で取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 多職種連携会議 年5回</li> <li>・上記の目的達成に向け、住民・関係機関が連携して、必要なテーマ・課題について共有し解決策を検討する。</li> <li>2 看取りに関する講演会 1回</li> <li>3 介護サービス情報誌の配布</li> <li>4 事例検討会 年5回</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療、介護従事者のスキルアップを目的に実施する。</li> </ul>
<p>事業の効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係者等と幅広い意見交換を重ねていることで、関係者間との連携強化が一層図られ、住民と顔が見える関係ができた。協働による、いつまでも健康で自立した生活を営む地域づくりが少しずつ進んでいる。</li> <li>・介護情報誌「道しるべ」の配布と地域での説明会を実施する中で、介護保険申請時に「道しるべ」を持参してくるなど介護保険制度についての理解が深まっていると思われる。</li> <li>・自分が望む最期の迎え方について、事例検討会や講演会を通じて家族の理解と支援者の協力を得ながら進めているところである。</li> </ul>
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護情報誌「道しるべ」を配布して終わりということではない。これからは、地域に暮らす住民が生活していく上で「道しるべ」を効果的に使ってもらえるよう、活用方法についての説明会を検討しなければならない。</li> <li>・道しるべの出前講座を実施した際の住民の反応や、その後の介護保険の申請件数・問い合わせ件数の伸び等、実態を調査し、検証を行ったうえで、介護保険制度について周知と理解が更に進むよう活用の仕方を検討する。</li> <li>・事例検討会や多職種連携会議では日頃の課題や困っていることが提供され、共有が図られ、解決のために検討されている。本事業でなくても継続していく必要がある。</li> </ul>

# 実施状況



▲ 道しるべ

		サービスの 道しるべ				
自立	軽度	要介護1・2～要介護1		要介護2～3	要介護4～5	重度
いつでも元気でいたい	在宅生活に見守り・手助けが必要	在宅生活に一部助が必要	在宅生活に全面的な助が必要	※介護度と状態はあくまで目安です。		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>立ち上がりが難しい</li> <li>杖がないと歩けない</li> <li>排泄の失敗はあるが、後始末ができる</li> <li>ものの名前が出にくくなる</li> <li>重要な約束を忘れる</li> <li>複雑な作業が難しくなる</li> <li>転倒が増える</li> <li>同じことを何度も言ったり聞いたりする</li> <li>自分のいる場所がわからなくなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行するのに杖や歩行器が必要</li> <li>手助けがないと入浴できない</li> <li>日にち、曜日、季節がわからなくなる</li> <li>家の近所でも迷子になる</li> <li>薬やお金の管理が難しくなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行困難、車いすが必要</li> <li>排泄の失敗が増え、後始末ができない</li> <li>物を見てもそれが何かわからなくなる</li> <li>自分の身の回りのことができない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどベッド上で過ごす</li> <li>常時おむつが必要</li> <li>準備をすれば自力で食事が摂れる</li> <li>言葉が減ってくる</li> <li>表情が乏しくなる</li> <li>寝たきり状態</li> <li>全面的に食事介助が必要</li> <li>日中眠っていることが多い</li> <li>話しかけた言葉が理解できない</li> </ul>		
P9・10 運動関連サークル①②	在宅の介護保険サービス					
P11 いきいきサロン	【対象者：要支援1・2】		【対象者：要介護1～5（要支援も可）】		P15 居宅介護支援事業所（ケアマネジャー）	
	P15 介護予防支援事業所（長岡市地域包括支援センターこしし・おくに）		【対象者：要介護1～5】		P16 介護タクシー	
	【対象者：要支援1～要介護5】				P14 医療機関・薬局	P16 ヘルパー P16 訪問入浴介護
	P12・13 介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）	P17 訪問看護	P17 訪問リハビリテーション	P17 通所リハビリテーション	P18 デイサービス	P19 ショートステイ
	P20 福祉用具貸与・特定福祉用具販売	P22 小規模多機能居宅介護	P23 住宅改修・改造			
その他のサービス【介護度に関係なく利用できます】			施設の介護保険サービス【介護度によって入所できない場合があります】			
・後期高齢者健診・各種がん検診 <small>（詳細は平成29年4月版の市報「健康カレンダー」をご覧ください）</small>			P21 施設入所事業所一覧 P22 グループホーム			
P23 ふれあい収集	P23 日常生活自立支援事業	P23 成年後見制度	生活用具の給付（な）	安心連絡システム（な）	【対象者：要支援1～要介護5】	【対象者：要支援1～要介護5】
	P23 オレンジカフェ	在宅介護者支援金（な）	はり・きゅう・マッサージ施術費助成券の交付（な）	車いすの貸与（な）		
	P24 弁当宅配事業所一覧	P25 買物宅配事業所一覧				

※（な）は、「なるほど介護保険」に詳細が記載されていますのでそちらをご覧ください。

▲ 道しるべ（7頁・8頁）

② 小国の魅力再発見事業「オーイ発見！おぐにの旅 PART II」

<p>事業の概要</p>	<p><b>【目的】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアガイドの活動体制を整え、小国地域の魅力と素晴らしさを内外に PR し集客や地域の活性化に繋がるように昨年の継続事業として「オーイ発見！おぐにの旅 PART II」を実施する。</li> <li>・越後カントリートレイル第2回大会開催にあたり、チームおぐに（仮称）の立ち上げと併せ、応援アイテム「おぐにキャップ」の作成・活用により一層の応援意欲の喚起を促し、住民一体となった地域の活性化を図りたい。</li> </ul> <p><b>【事業費】</b> 600,864円</p> <p><b>【内容】</b></p> <p>1 トレイルランニングでのガイド活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡駅に出迎え、小国までの送迎時に小国地域のガイドを行う。</li> <li>・交流会時に地域内の PR（郷土料理・その他イベント含む）を行う。</li> <li>・長岡駅構内で「かかし」でお出迎え</li> </ul> <p>2 おぐにキャップの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・帽子の作成と応援者への配布 ボランティアスタッフ用200個、小中学生用200個</li> <li>・応援参加への呼びかけ</li> </ul> <p>3 小国の写真展ほかパンフレットの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小国巡り・イベント・物産・お土産等小国情報を掲載</li> </ul> <p>4 ボランティアガイド研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進的な地域のボランティアガイドに学んだ</li> </ul>
<p>事業の効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な地域資源等の観光 PR は、小国地域への関心と認知度を高め、四季を通じて観光客増につながることができた。</li> <li>・ボランティアガイドなどの先進地視察（山形県上山市）で、ガイドの技術向上と育成の機会を創出することで、ガイドのスキルアップとレベルアップを図ることができた。</li> <li>・越後カントリートレイルの応援態勢の強化及びトレランを通じた地域興しは、レース参加者が767人と（前年比259増）とランナー及び地域住民からも大変好評を頂いている。また、今年から小国の小中学校を巻き込み地域貢献活動として取り組んでいただき、小国地域の一体感の醸成を図ることができた。</li> </ul>
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光協会などの各種団体は、結果的に補助金・交付金に頼らざるを得ない状況下にある。今後も継続的に魅力ある事業展開を発信し、小国へ訪れてもらい小国ファンを獲得することで、持続可能な地域振興策に繋げていきたい。</li> </ul>



# 実施状況

## 1 平成29年6月17日(土曜日)トレイルランニングガイド



▲ 長岡駅構内かかし展①



▲ 長岡駅構内かかし展②



▲ 長岡駅構内かかし展③



▲ 長岡駅構内かかし展④

## 2 平成29年6月17日(土曜日)トレイルランニング交流会



▲ トレイルランニング交流会①



▲ トレイルランニング交流会②



3 平成 29 年 8 月 11 日（金曜日・祝日）「小国巡り」



▲ 小国巡り①



▲ 小国巡り②

4 平成 29 年 10 月 2 日（月曜日）「まみのやまかかし祭り交流ツアー」



▲ かみのやまかかし祭り交流ツアー①



▲ かみのやまかかし祭り交流ツアー②

5 平成 29 年 11 月 3 日（金曜日・祝日）「おぐに秋まつり写真展」



▲ おぐに秋まつり写真展①



▲ おぐに秋まつり写真展②